

# 地下鉄桜通線の延伸にともなう 緑区東部の『よりよい交通のあり方』に関する 事業所アンケート調査 概要版

## 1. 調査概要

### (1) アンケート調査の目的

緑区の東部地域では、平成 23 年 3 月 27 日の地下鉄桜通線野並ー徳重間（約 4.2km）の  
開通により、周辺バス網も再編され、公共交通をとりまく環境は大きく変化しました。

そこで、名古屋市ではモビリティ・マネジメントの一環として、地域で活動されている事業  
者や従業員の皆さまに対して交通環境の変化をお伝えするとともに、事業所にとってよりよい交  
通のあり方は何かを把握するため、アンケート調査を実施しました。

### (2) 調査対象地域・対象者

アンケート調査の対象エリアとし  
て、徳重駅より半径 3km 圏内に含  
まれる小学校区 11 学区と設定しま  
した。

この対象地域での営業活動を行っ  
ている事業所から抽出した 150 社  
を対象に調査を実施しました。



### (3) 調査方法・期間

本調査では、通勤手当等の考え方、従業員の通勤特性などの経営者側の調査と、実際に徳重  
駅周辺に通勤する従業員側の調査を同時に行いました。そのため、調査票は「事業所アンケー  
ト調査」と「従業員アンケート調査」に分類し、各社に各調査票を同封して実施しました。

アンケート調査は事業所 1 社あたり、事業所アンケート 1 通、従業員アンケート 10 通を郵送  
配布し、郵送により回収しました。

■調査実施期間 平成 23 年 2 月 1 日（火）送付（回答期限平成 23 年 2 月 18 日）

### (4) 調査票配布数・回収数

	配布数	回収数	回収率
事業所票	150 通	25 通	16.7%
従業員票	1,500 通	103 通	6.9%

※従業員票は 1 事業所あたり 10 通配布

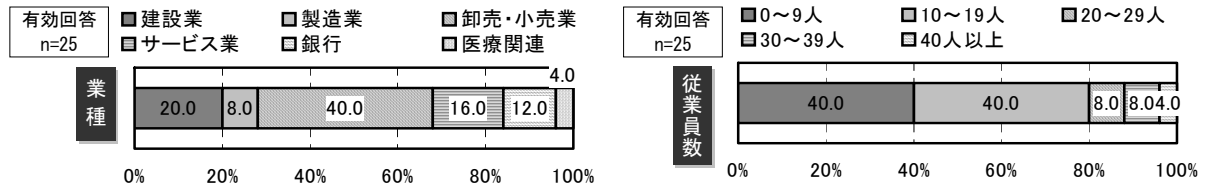
## 2. 調査結果の概要

ここでは、事業所票、従業員票で得られた調査結果の一部を掲載します。

### (1) 事業所票

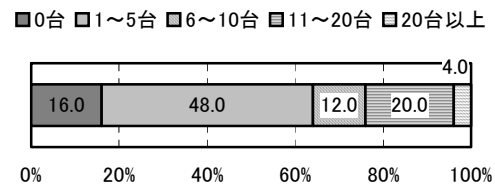
#### ①業種・従業員数

回答のあった事業所 25 社の業種、従業員数は以下の通りです。



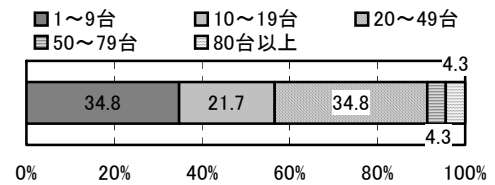
#### ②社有車の保有台数

25 社のうち 4 社が、社有車を保有していませんが、残り 21 社のうち半数以上の 12 社が保有台数 1~5 台となっています。



#### ③駐車場の確保状況

社有車だけでなく従業員用、来客用を含めた駐車場の確保状況をみると、全体の 1/3 にあたる 8 社が 1~9 台の駐車場となっています。また、半数近くの 10 社では、20 台以上の駐車場を確保しています。

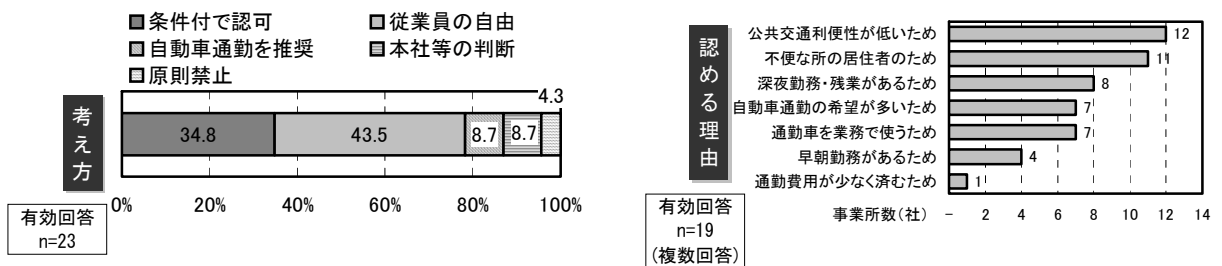


#### ④通勤手当の支給基準

回答されたほぼ全社にあたる 20 社では、自動車、バイク・原付の通勤に対して通勤手当を支給しています。さらに 4 社では自転車、2 社では徒歩に対しても通勤手当を支給しています。

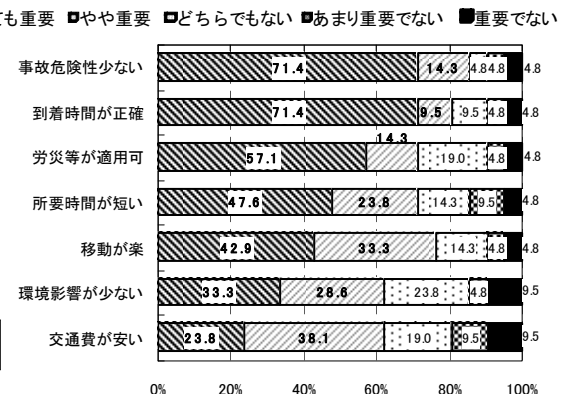
#### ⑤自動車通勤への考え方 と 自動車通勤を認める理由

ほとんどの事業所が自動車通勤を認めており、理由として「公共交通の利便性が低い」「不便な所に居住する従業員のため」「深夜勤務・残業がある」「自動車通勤の希望が多い」等が挙げられています。



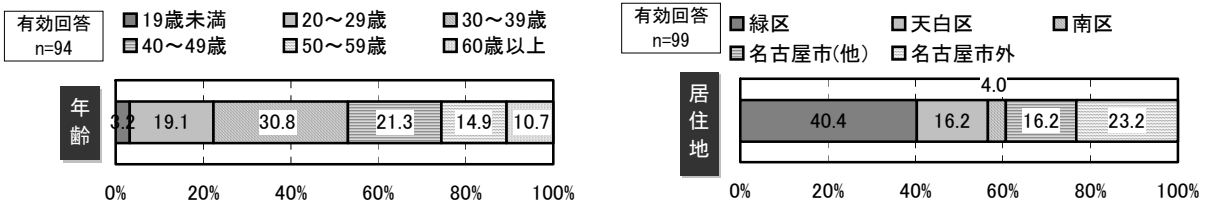
#### ⑥従業員の通勤交通として重視すること

従業員の通勤交通として重視することでは、「やや重要」と「とても重要」を合わせると、「事故の危険性が少ない」「到着時間に正確」「移動が楽」の順に重視されています。



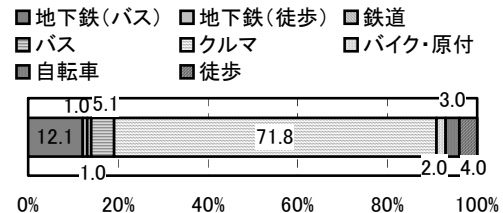
## (2) 従業員票

### ①年齢・居住地



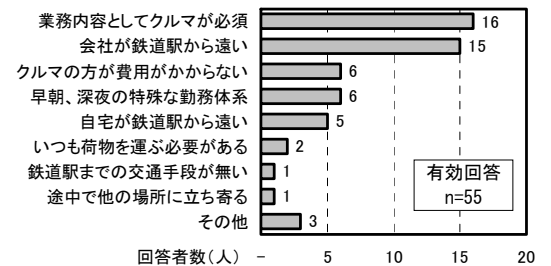
### ②通勤時の交通手段

従業員の通勤時の交通手段をみると、約7割がクルマ利用であり、居住者アンケートの通勤・通学と比較するとややクルマ利用が高い傾向にあります。(逆にバス利用はやや低い傾向にあります)。



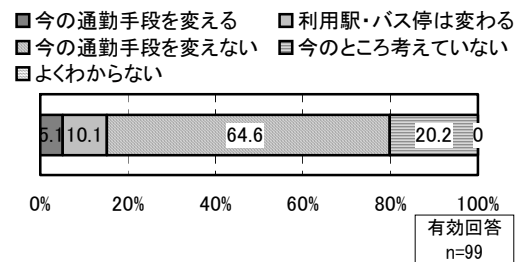
### ③クルマ通勤をする理由

クルマ通勤をする理由では、「業務内容としてクルマが必須」が最も多く、「会社が鉄道駅から遠い」の順で回答が集中しています。また、「クルマの方が費用がかからない」等の理由も若干数挙がっています。



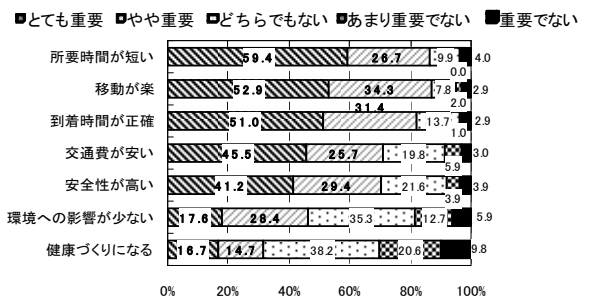
### ④地下鉄開通による交通手段転換の可能性

地下鉄開通に伴う通勤時の交通手段の変更可能性について、「今の通勤手段を変えないと思う」が約65%、「今のところ考えていない」が約20%となっており、従業員の約9割弱の方が地下鉄延伸後も交通手段を変える可能性が低いことが伺えます。



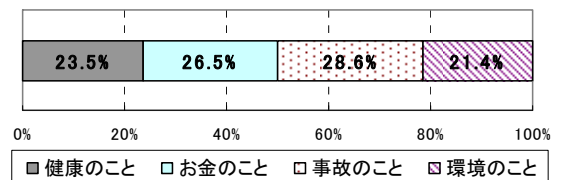
### ⑤交通手段を選択するときに重視する点

通勤交通として従業員の立場から重視する視点としては、「所要時間が少ない」「移動が楽」「到着時間が正確」を回答する従業員が多く、逆に「環境への影響が少ない」「健康づくりになる」については、あまり重視されていない傾向にあります。



### ⑥リーフレットで一番興味を持ったこと

アンケート調査票に同封したリーフレットの4項目の全てがほぼ同程度の割合となっておりますが、「事故のこと」が約29%と若干高くなっています。



### ⑦自動車利用を減らすための方策

自動車利用を減らすための方策としては、「1度に色々な用事を済ます」が最も多く、次いで「地下鉄やバスで行く」「自転車や徒歩で行く」の順となっています。

